

社会福祉法人 ゆうのゆう 2011 年度事業報告書

(2011 年 4 月 1 日 ~ 2012 年 3 月 31 日)



【目次】

総括 デーセンターモモの家 デーセンター機関車 デーセンター夢飛行 被災地支援 リサイクルショップ・自主製品・利用者還元金 旅行 車椅子ダンス 後援会 医療的ケア スタッフ体制 決算 2012 年度

総括

2011年3月11日に発生した東日本大震災　かつて阪神大震災を経験した大阪の地で活動を続けてきた私たちが、この未曾有の大災害を受けて真っ先に思い至ったのは、現地で想像を絶する困難にみまわれているであろう障害当事者の方々のことでした。「何ができるのかはわからない。しかし、何もせずにはおれない」　そうした思いの表出が、震災発生の約1ヶ月半後から開始した法人スタッフの被災地派遣でした。現地に赴く有志スタッフと、その活動を後方(大阪)から支えるスタッフ。双方の努力と周囲の皆様の多大なご理解・ご協力の甲斐あって、大阪での活動に大きな支障をきたすことなく、この派遣活動も一年間継続することができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

こうした活動の根底にあるもの。それはやはり、日々「重症心身障害者」と呼ばれる方々と関わる中で痛感する「待った無し」という感覚ではないかと思えます。利用者本人の障害の重さ、家族の高齢化や健康状態に起因するそうした感覚があつてこそ、これまで以上に利用者の日々の生活に寄り添い、それを一層充実した形で支えようという動機が生まれるのでしょうか。

法人として第1号となるケアホームの設置についても、本年度中の開所には至らなかったものの、名称を「ことのは」と定め、入居予定者7名も決定しました。現在は建物の工事と事業所体制の整備を並行して進めているところです。また、利用者の増加に伴う生活介護施設の新拠点設置についても、港区と阿倍野区で物件が決まり、設計と人員配置等の調整段階に入っています。こうした私たちのホームグラウンドにおける「待った無し」と、被災地における「待った無し」とが決して無縁のものではないからこそ、双方への取り組みが可能だったのではないかと考えます。

「待った無し」　言い換えればある種の「危機感」を共有することで、目の前の課題を打開する力を引き出し、同時に将来を見据えた布石を打つ。2012年度は13名の新卒スタッフ採用が決定しました。利用者の増加に比例して若いスタッフが増えていく中、彼らがピンチをチャンスに変えていくことに「喜び」を見出せるか、それともピンチの「プレッシャー」に押しつぶされてしまうのか　。法人の行方を左右するこの後継者育成への注力が、今後ますます重要になっていくことは間違いありません。

2012年6月13日
社会福祉法人 ゆうのゆう
代表理事 小林 美穂

デーセンターモモの家

活動状況：

地域との「つながり」をコンセプトに、施設の内においても外においても見上げることのできる「緑」を配した、リサイクルショップ「カシオペイア」の屋上スペース。今ではすっかり実り豊かな庭園となりました。本年度は、ここで採れたレモンやハーブ等を、調理活動や自主製品制作活動に応用する試みもスタート。内外から好評を得ています。

また、例年のプール外出に代わって、「ショッピング」をメインに据えた外出も年間を通じて随時企画・実施しました。同じ「外出」であっても、その「主目的」を変えることで企画の視点にもバリエーションが加わり、利用者も新鮮な印象を受けたようです。

イオン・グループの「イエローシートキャンペーン」においても、例年同様、利用者と一緒にPR活動を実施。その他、福島区の「あいあい祭り」や、2010年度オープンした障害者自主製品を扱う常設店舗「Torute」関連イベントへの積極的参加等、地域との交流関係の発展にも努めました。

年間行事：

| | |
|---------------|-------------------------------|
| 【2011年】 4月 | 入所式（西成区民センター）・花見外出 |
| 5月 | 旅行（山口） |
| 6月 | Torute 店頭販売・買い物外出 |
| 7月 | 旅行（岐阜）・買い物外出 |
| 8月 | なにわゴスペルフェスティバル・買い物外出 |
| 9月 | 旅行（東京／横浜）・手作り教室・自主製品展示即売会@市役所 |
| 10月 | 旅行（鳴門／淡路島）・絵本読み聞かせ |
| 11月 | グループ外出・岩手県より当事者来訪・被災地支援イベント参加 |
| 12月 | 旅行（兵庫）・クリスマス会・忘年会 |
| 【2012年】 1月 | 初詣外出・成人の集い |
| 2月 | あいあい祭り・バレンタインデー・車椅子バスケット観戦 |
| 3月 | ホワイトデー・スプリングコンサート・車椅子ダンス発表会 |

デーセンター機関車

活動状況：

本年度5月よりそれまで8人であった利用定員を11人に増員しました。それに伴い、移転を基本とした施設環境の整備・改善が当面の課題となっています。

新たな利用者・スタッフが加わったことによる雰囲気の刷新は、恒例の地域イベントへの参加に加えて、Torute 関連ワークショップへの精力的な取り組み等、実際の日中活動にも活気を与えてきました。

その一方、活動の中でスタッフが大きな怪我を負ってしまう事故もありました。利用者の健康・安全に細心の注意を払うのはもちろんのこと、スタッフ自身の安全・健康管理もまた、充実した支援活動には欠かせないのだということを再認識することとなりました。

年間行事：

| | |
|---------------|------------------------------------|
| 【2011年】 4月 | 入所式（西成区民センター）・花見外出 |
| 5月 | 旅行（山口） |
| 6月 | Torute 店頭販売・キカンシャシネマ |
| 7月 | 旅行（岐阜）・プール外出・流し素麺 |
| 8月 | プール外出・Torute 店頭販売 |
| 9月 | 旅行（東京／横浜）・かえっこバザール出展・Torute 店頭販売 |
| 10月 | 旅行（鳴門／淡路島）・バースデー会 |
| 11月 | グループ外出・もちもち感謝祭・被災地支援イベント参加 |
| 12月 | 旅行（兵庫）・クリスマス会・キカンシャシネマ |
| 【2012年】 1月 | 初詣外出・リラクゼーション・キカンシャシネマ・Torute 店頭販売 |
| 2月 | バレンタインデー・車椅子バス観戦・リラクゼーション |
| 3月 | ホワイトデー・スプリングコンサート・車椅子ダンス発表会 |

デーセンター夢飛行

活動状況：

毎年実施しているグループ外出は少し趣向を変えて、「カレンダー外出」と銘打っての企画となりました。12のグループに分かれ、外出先でそれぞれの「月」を連想させる写真を撮影。その写真を使って2012年のカレンダーを制作するというものです。出来栄は上々で、活動の多様化に一役買ってくれました。

国際交流の分野では、マレーシアにて派遣活動中の国際協力機構（JICA）スタッフの方を仲介とした、現地障害者支援施設とのSkype通信による交流活動を行いました。その中で、日中活動として取り組んでいる「ビー玉アート」を紹介したところ、相手方でも試みに取り組んでいただき好評を得ています。

リサイクルショップの運営にも引き続き力を入れ、過去最高の売上を記録しました。地域の出店者との交流も継続しており、商品ディスプレイ等の点で良き参考となっています。Toruteにおける店頭販売活動も定着し、「場所柄」や客層に応じた商品開発・販売促進等、内容の充実がより一層求められます。

年間行事：

| | |
|---------------|-----------------------------------|
| 【2011年】 4月 | 入所式（西成区民センター）・花見外出 |
| 5月 | 旅行（山口）・Torute 店頭販売 |
| 6月 | Torute 店頭販売・カレンダー外出 |
| 7月 | 旅行（岐阜）・流し素麺・リピート山中さんコンサート |
| 8月 | なにわゴスペルフェスティバル・Skype 交流活動・プール外出 |
| 9月 | 旅行（東京／横浜）・国際文化教室・カレンダー外出 |
| 10月 | 旅行（鳴門／淡路島）・誕生日会・カレンダー外出 |
| 11月 | Skype 交流活動・岩手県より当事者来訪・被災地支援イベント参加 |
| 12月 | 旅行（兵庫）・クリスマス会・誕生日会 |
| 【2012年】 1月 | 初詣外出・成人式・Torute 店頭販売 |
| 2月 | バレンタインデー・車椅子バス観戦・海苔巻パーティ |
| 3月 | ホワイトデー・スプリングコンサート・車椅子ダンス発表会 |

被災地支援活動

東日本大震災の発生に伴い、被災障害者の支援をバックアップする「ゆめ風基金」の呼びかけに応じる形で、法人スタッフの被災地派遣活動を開始。2011年4月29日から2012年4月28日までの丸一年間で、延べ43名のスタッフを岩手県沿岸部に派遣し、現地での障害者支援活動に従事しました。

派遣初期の段階では、避難所をはじめ、県内沿岸部各所で被災された障害当事者の所在確認と支援ニーズの掘り起こしが中心。その後、ヘルパー派遣のような形での個別的・継続的な支援、物資（食品・衣類・介護用品・医療機器等）の調達と配達、交流イベントの企画推進等に携わりました。

スタッフの現地派遣以外の支援活動としては、利用者・家族、スタッフ、後援会等への呼びかけを通じて、支援物資と義援金（約180万円）を募ったほか、大阪で開催された被災地支援イベント（2011年11月23日/扇町公園）へも参加。イベントでの自主製品売上の一部を義援金として寄付することで、利用者も主体となった支援活動が展開できたのではないかと考えています。

また、現地派遣スタッフが岩手県宮古市で出会った重症心身障害の男性当事者とそのご家族との交流が実を結び、ご本人とお母様が大阪来訪（11月下旬）。法人利用者との交流も実現しました。

震災から1年以上が経過した今も、現地障害者福祉の復興が成ったとは言い難い状況です。今後も直接的であると、間接的であるとを問わず、支援活動を継続していく必要があると考えます。



リサイクルショップ・自主製品・利用者還元金

リサイクルショップ：

本年度は、各施設に併設しているリサイクルショップや地域イベントへの出店のほか、前述の Torute における店頭・委託販売にも力を注ぎ、売上増を目指しました。特に、Torute の店頭販売については、試験的に夢飛行のみで取り組んでいた 2010 年度から一歩前進して、モモの家、機関車も Torute に加盟。三施設とも定期的な店頭販売に取り組んでいます。

自主製品：

数年来、自主製品の開発については、モモの家が中心となって取り組んできました。羊毛ボールを用いたアクセサリ小物、クレイ粘土を用いたマグネット、包みボタンのヘアゴムのほか、「ビー玉アート」のデザインをアクリルでコーティング加工して制作したクリスタル調ネックレス等、既存のオリジナルポストカード（ビー玉アート）を応用した新製品も生まれています。

機関車でも、同様の手法でエコバッグ制作に取り組み、ワークショップ等の地域イベントでは子どもたちから大好評を得ていました。

夢飛行では、商品化までには至っていないものの、「地域支援センターかけはし」（岸和田市）が制作・販売している「poRiff（ポリフ）」というポリ袋を活用した新素材製品のワークショップを主催（11月）し、自主製品開発への雰囲気盛り上げました。

このように各施設で新製品の開発が本格化しつつありますが、今後、費用対効果や販拡を視野に入れた長期的な展望・企画推進が求められていくものと思われます。

利用者還元金：

利用者還元金には、リサイクルショップの売上のほか、各施設での実習生受け入れ費用もこれに充てています。それは「実習生を指導するのはスタッフではなく、利用者である」という考え方に基いており、2010 年度に引き続き、大阪歯科大からの実習生ばかりでなく、ヘルパー2 級資格取得に係る実習もエール学園（浪速区）を中心に受け入れを行いました。

しかし、夢飛行を除く 2 施設のリサイクルショップの売上が 2010 年度よりも減じたこと、スタッフの被災地派遣に伴う人員体制の都合上、実習生の受け入れにも制限を設けざるを得なかったこと、還元金を受け取る利用者が初めて 100 名の大台を超えたこと等により、1 人当たりの還元金額は 12452 円と 2 万円台に手が届くかと思われた 2010 年度から大きく後退してしまいました。より一層の努力を要する課題となりそうです。

| | モモの家 | 機関車 | 夢飛行 | 合計 |
|----------|----------|----------|----------|-----------|
| ショップ売上 | 201255 円 | 102445 円 | 507337 円 | 811037 円 |
| ヘルパー2級実習 | 118125 円 | 73500 円 | 210000 円 | 401625 円 |
| 歯科大実習 | 15000 円 | 15000 円 | 15000 円 | 45000 円 |
| 合計 | 334380 円 | 190945 円 | 732337 円 | 1257662 円 |

旅行

アンケートによって希望旅行先を検討した結果、本年度は、【山口・岐阜・東京／横浜・鳴門／淡路島・兵庫（湯村温泉）】の5箇所への旅行となりました。

| 行先 | 参加利用者数 | 参加家族数 |
|---------------|--------|-------|
| 山口旅行（5月） | 10名 | 1名 |
| 岐阜旅行（7月） | 23名 | 14名 |
| 東京／横浜旅行（9月） | 17名 | 4名 |
| 鳴門／淡路島旅行（10月） | 24名 | 7名 |
| 兵庫旅行（12月） | 12名 | 2名 |

どの行程においても、多少の難はつきものでしたが、全体的な結果としては、景色や食事、温泉等を満喫し、利用者一人一人年に一度の旅行を楽しむことができました。

車椅子固定が可能な大型バスはどこにでもあるわけではないため、こちらでバスをチャーターしての移動となりました。そのため、一般的な旅行と比べると費用が高額となってしまいました。費用を抑えつつ、安全で快適な旅行ができるよう努めていきたいと思えます。



車椅子ダンス

毎月1回、講師（松浦吉谷さん／帝塚山ダンススクール）を招いての車椅子ダンス練習もすっかりおなじみのものとなりました。3月の発表会は西成区民センターのホールを貸し切り、ご家族も招いて盛大に開催。今年も華やかな衣装と効果的な演出で拍手喝采を浴びました。

一方、年々レベルアップする技術を習得することにスタッフが精一杯になってしまっている点や、活動としての方向性を明らかにする等の課題も残されています。

【演目】M.ジャクソン「スリラー」／小田和正「ラブストーリーは突然に…」／沖縄カチャーシー（伝統民間舞踊）「めでたいめでたい」



後援会

延べ会員数は1000人を超えていますが、逝去等の理由による退会あり、最近の会員数は伸び悩んでいます。現在、ケアホーム「ことのは」や生活介護新拠点の設立、機関車の移転が控えています。福祉制度の行方が混沌とする中、多くの方々に私たちの活動を支えていただくことの重要性は日増しに高まる一方です。そして、用途自由な運営費の確保もまた欠かせません。

しかし他方、友人・知人等に呼びかけ、後援会員を勧誘・獲得できる関係者やスタッフは全体のごく一部です。「後援会員の獲得」＝「私たちの活動に対する理解・共感を財政面の充実に結び付けること」の重要性をいかにスタッフ間に浸透させていくのか。これが根本的な課題となっています。



医療的ケア

加齢や障害の進行等により医療的ケアの必要性は増す一方です。2012年度からは「社会福祉士及び介護福祉士法」の一部改正が施行され、痰の吸引や経管栄養注入といった行為を一定の要件を満たした介護職員が実施できるようになります。法人としても、施設長等一部のスタッフに必要な研修を受けさせ、これに対応すべく態勢を整えようとしているところです。しかし、実地研修等の実施に当たって必要な「指導医師・看護師」の確保が容易でないことや、研修の実施機関・実施時期等についての情報が圧倒的に不足していること等、利用者にとって必要な医療的ケアの提供について、それを十分に保証できるかどうか不透明な状況にあります。

他方、スタッフの支援が「生活支援」でなく「医療技術支援」に陥ることのないよう、重症心身障害者に対する支援の意味や目的を一人一人のスタッフが常に自問自答する必要があります。医療的ケア実施のための研修と同時に、スタッフが「福祉職」としての本分を見失うことのないようにするための環境整備もまた法人としての課題となっています。

スタッフ体制

依然スタッフの年齢構成は比較的若く、配置としても「1.7:1」の最高基準を満たしています。しかし、利用者数・スタッフ数の増加によって、各施設の人員規模が大きくなるにつれ、スタッフ間における「法人スタッフ」としての意識が希薄になってきているのではないかという懸念も生じています。各「施設」に別個所属する「施設スタッフ」ではなく、活動の理念や目的を共有した「法人スタッフ」であるという認識を欠いてしまえば、今後控えている、ケアホームや生活介護新拠点の設置によるスタッフの分散配置が、「法人」としての活動の充実化を妨げる要素となりかねません。

そうした弊害を未然に防ぐためにも、本年度は各施設の新人スタッフが、一定期間法人内他施設で活動に従事する「新人他施設研修」を三回にわたって実施しました。新人スタッフからの感想としては、「所属施設と研修先施設との相違点(良きにつけ、悪きにつけ)が新鮮だった」、「法人全体で利用者さんの地域生活を支えているのだということを再認識した」といった趣旨のものが大半を占めており、概ね好評でした。ただ、気付いた相違点から見えてきた「改善点」を実際どのように改めていくのか、また、新人に限らず「中堅」以上のスタッフについても同様の「職場内研修」を実施すべきか、といった課題も見えて

きました。

一方、2012年度のスタッフ採用については、前述の通り、活動拠点の増設を視野に入れて取り組んだ結果、13名（男性4名/女性9名）の新卒スタッフ採用が決定しました。

決算

運営は全体として順調に推移しました。通所・利用者さんの増加に伴い、自立支援法による介護給付費は約3000万円増加しました。一方、新卒採用による人件費増加は約1000万円にとどまりました。

しかし、当法人の設置・運営する施設はすべて賃貸物件です。作業所、小規模通所授産施設として長らく使用してきた建物は必ずしも堅強なものとは言えず、賃貸開始から10年以上が経過した物件については、今後補修・修繕費用の計上が見込まれます。エアコン、パソコンなどの備品類も同様です。このための費用確保が来年度の課題となります。

さらに送迎に関連する費用が増加しています。利用者の居住地は大阪市全域に広がっており、車両費、燃料費、保険代、ドライバーへの人件費が増加しています。送迎時間が増えると同時に自損事故、接触事故などのリスクも増大するため、車両の修理費に負担が増えます。送迎手段の確保は重い障害を持つ方々には必須であり、送迎を中止する選択は私たちには存在しません。しかしながら、今後は送迎費の徴収などにより少しでも送迎費用の負担軽減を図る必要があります。

2012年度

ケアホームを開所します。大正区泉尾に土地オーナー施主による建築（木造2階建）で、法人が賃貸契約します。これまで通所施設による障害者支援を行ってきた私たちにとっては、初めて利用者さんの生活・人生全体を支える活動に踏み出します。スタッフのより一層の自覚、奮励が必要です。

また、デーセンターモモの家については港区市岡元町、デーセンター夢飛行については、阿倍野区昭和町にそれぞれ新しい拠点を設け、従たる事業所とします。既に2011年度中に賃貸契約を開始しています。1拠点の定員を大きくすることによるスケールメリットもありますが、忘れ物、見落としなどスケールが大きくなることによるデメリットも散見されるようになっていきます。スタッフへの注意喚起はもちろんのこと、新拠点設置によって1拠

点の定員を低減させることもその解決策として有効だろうと思われま

す。
2012年度はハード整備による支出の増加、ケアホーム設置によるスタッフの勤務体制の変更、さらにはこれらハード整備に伴うスタッフの意識改革がより求められる年度となりそうです。規模が大きくなるにつれ、社会から求められる活動の基準が徐々に上がってきています。コンプライアンス（法令順守）のほか、利用者、またその家族への接し方も、小規模な活動時期とは違った対応を求められるケースも出てきます。若いスタッフが多数を占める私たちは、前例に倣うよりも自らそのルールを作りだすことを自覚しなければなりません。